

目の前が変わる

市川茂子

新しい年の松飾りが取れたら、目の前の空家の取り壊しがはじまった。

一方通行の道路の真向いで、木造二階建てなので、最初は屋根の瓦を降ろして、二階からハンマーでこわしている。その残骸を道路に横付けにしたトラックに積みながらの解体作業をしている。

ビルやマンションの解体工事のような、騒々しい音が聞こえてこないし、夕方五時頃になると、さっさと引上げてゆく。いつの間にか、家がなくなってしまったという感じだった。

今まで住んでいた方とは否応なしに顔が合うので、何かと親しくなり、お互いにお茶呑みに行き来していた。ある時、お客さんの出入りが多いですね、と言われて、なんだか監視されているような気がした。戸を開けると、目の前に見える気色なのだから、自然に毎日の生活の動きがわかって

しまうのだ。

今度は地盤固めの工事のようで、小型の重機が入って、ドスン、ドスンと、音がひびくようになって来た。その音の振動が道路の下を伝わって、こちらの地盤も振動するので、時々地震と間違えてしまう。

まだ建築の表示板が出ていないので、どんな建物になるかわからないが、しばらくの間は、工事現場にいるような騒々しい音がひびいてくる毎日になりそうだ。

目の前にどんな新しい姿が現れるだろうかと思いつながら、早く完成してほしいと願っている。